

市長就任のごあいさつ



私は、このたび新生「古河市」の市長選挙におきまして、多くの市民の皆さまから信任をいただき、初代市長として重責を担わせていただくこととなりました。その職責の重さ、また、皆さまの期待の大きさを考えますと、まさに身の引き締まる思いであります。

さて、9月12日にスタートいたしました新市は、「大きな魅力に満ち、将来への可能性を秘めたまち」であります。その理由としまして、新市は地勢や地理的条件、交通体系に恵まれるとともに、歴史や文化が息づき、そして何と申しましても、旧古河市の商業、旧総和町の工業、旧三和町の農業と、それぞれ特色のある産業基盤に立脚していることが挙げられます。

しかし、可能性を秘めているということと、発展することとは同じ意味ではありません。今後、これら新市の可能性をどう活かし、どう発展につなげていくのかが、たいへん重要なことでもあります。

ところで、今回の3市町合併は、少子高齢化への対応や地方分権型社会の創造、行財政改革など、国や地方の大きな変革に対処するため、自治体の体力と足腰の強化という社会的な要請の中で行われた面が大きいわけですが、私は今回の合併を、むしろ能動的な立場で捉えております。と申しますのも、地方自治は本来、地域の自己決定・自己責任のもとでまちづくりが行われるものであり、住民自治の実践こそが本来の姿であると思うからであります。

そこで、私は皆さま方に今まで以上に市政への参画をお願いしたいと考えております。市民と市役所が一体となって自分のまちの現状の把握や資源の再発見に努め、創意と工夫を凝らし、この地域ならではの個性ある素晴らしいまちづくりを推進していきたいと思っております。このため、市におきましても、広く皆さま方に市政の情報を公開し、気軽に市政に参画いただけるような身近で開かれた市政を展開していく考えでおります。

私が市長選挙で掲げました「対話と参加」「市民と歩む都市づくり」という基本姿勢は、まさに住民自治の実践であり、市民による市民のための新生「古河市」の創造であります。

どうか皆さま方のご理解とご協力、そしてご指導とご支援を賜りますことをお願い申し上げます、就任のあいさつといたします。

古河市長 白戸 伸久

市長 初登庁

10月20日午前10時、白戸市長が古河市役所本庁に初登庁しました。

玄関前で職員や支持者の出迎えを受け市長室へ。その後、11時から中央公民館で市長就任式と職員への訓辞を行いました。



▲市役所にて職員から花束を贈られる市長



◀市長就任式の様子

市長選挙 投票率は **60.44%**

10月16日、市長選挙の投票が市内58投票所で行われ、午後9時から生涯学習センター総和（とねミドリ館）で即日開票されました。投票率は60.44%で、選挙結果は次のとおりです。



▲開票の様子



▲期日前投票所にて。6日間の期日前投票期間中の投票者は7,548人です

○当日の有権者数

男性	58,123人
女性	58,636人
合計	116,759人

○投票者数・投票率

男性	33,872人・58.28%
女性	36,692人・62.58%
合計	70,564人・60.44%

○得票数

当選	白戸 仲久	27,809票
	小久保 忠男	23,498票
	菅谷 憲一郎	18,635票
	得票総数	69,942票
	(白紙・無効・その他622票)	

古河の歴史をたどる
ガイドツアー

古河ものがたり

新たな古河市、しかし、その歴史をひもとくと決して新しいものではありません。「古河」という地名ひとつ取り上げても、古くは奈良時代の『万葉集』に始まります。しかし、だからといってそれ以前にこの地に人々が住んでいなかったわけではありません。遠い過去から、私たちが住む現代への道のり。古河の歴史をたどるガイドツアーに、これからご案内いたします。



＜原始古代の古河＞

1. 宮戸川を往来した旧石器時代の人々

私たち古河の歴史をひもとくとき、いったい、いつからこの場所に人々が暮らしていたのかという疑問がよぎります。こんな疑問に多少なりとも答えてくれるのは、稲宮の行屋西遺跡。ここでは、2.2～2万年前の旧石器時代の石器が発見されています。古河市では行屋西遺跡をはじめ宮戸川沿いには、下大野の権現久保遺跡、久能の香取西遺跡、葛生の磯ノ木遺跡など、同時期の遺跡が確認されています。どうやら、この川沿いに滞在しては移動といった生活をしていただのでしょう。

2. 古東京湾に面した縄文時代の人々の暮らし

今からおよそ6千年前、目を閉じると、そこには東京湾のさざ波の音が聞こえてきました。このころの地球は温暖化が進み、極地の氷が溶けて海水が上昇してきたのです。今では想像もつかない遠浅の海がそこにはあり、ヤマトシジミやマガキなどをとっては暮らしていました。古河総合公園の周りには、十六カ所の貝塚が残っています。



3. 万葉集に登場！ 古河の歌

奈良時代ともなると、いよいよ私たちの古河は歴史に登場します。『万葉集』という和歌集です。この中で、古河を詠んだと思われる歌が二首あります。

「まくらがの こがのわたりの からかじの おとたかしもな ねなへこゆゑに」

「あはずして ゆかばおしけむ まくらがのこがこぐふねに きみもあはぬかも」

いずれも、渡し場や船の往来を背景にしたもので、当時、交通の要であったことがうかがわれます。

4. 特産品は須恵器

ところで、このころの産業といえば、古河では須恵器とよばれる器の工房がありました。三和窯跡群といわれる尾崎浜ノ台遺跡や江口堀崎遺跡・恩名古屋敷遺跡など、飯沼の近くでそれらは作られ、各地で使用されたようです。



<中世の古河>

1. 静御前や源頼政の伝承

平安時代の終わり、平家追討に立ち上がった武士に源頼政がいました。頼政は拳兵してすぐ宇治平等院で討ち死にしていますが、その首は古河までもたらされ、まつられました。渡良瀬川の堤防近く、頼政神社がそれです。また、源義経を訪ねて奥州へ向かう静御前は、大堤〜前林とさまよい、亡くなってしまうという伝説もあります。奥州行きを思案した思案橋(下辺見)、静結びの柳(前林)・静の遺品を伝える光了寺(中田)など古河には静御前ゆかりの場所があるのです。



2. 鎌倉公方足利成氏 古河を拠点にする

今から550年前、東国を治める鎌倉府の長官鎌倉公方足利成氏が古河にやってきました。以後約120年間5代にわたって、北関東の豪族の支援を受けて、古河公方として関東に君臨しました。古河公方足利氏は、古河に鎌倉の文化をもたらししました。医聖と呼ばれた田代三喜、連歌師猪苗代兼載を招いたり、寺社を古河に勧請したりしました。古河総合公園には、古河公方館跡、徳源院跡など公方ゆかりの史跡が数多く残されています。

<近世の古河>

1. 新古河市の江戸時代

—ひとつの城下町と三つの宿場町と六十におよぶ村々

現在の古河市は、江戸時代には六十四カ所の町村に分割されていました。たとえば、古河藩領のすべてがひとつの連続した領域に含まれていたわけではありませんし、ひとつの村に複数の領主がいることだってありました。市町村制に慣れた現代人にはちょっと難解ですね。

そこで、当時の古河市の様子をちょっとだけ眺めてみましょう。城下町は古河町一カ所。ここを行政の拠点とするのが古河藩でした。市域に古河藩領であった村数を当てはめると二十九カ村。残りの三十四カ村は複雑です。幕府領二十カ村、壬生藩領四カ村、関宿藩領四カ村、旗本領三カ村、そして関宿・壬生・幕府・旗本領、関宿・峯山藩領、壬生・幕府領の複数支配(相給)村が各一合計三カ村というように。共通している



のは、いずれも徳川将軍家が信頼をおく譜代の大名・旗本の領地であるか、天領であったということでしょうか。

2. 古河城と城下町 街道と宿駅

古河市域の江戸時代、その特徴のひとつは、渡良瀬川・利根川舟運の利便性を活用して多くの人・物が集まる場所ということ。古河城に勤める多くの藩士たちは、衣食住に関わるさまざまな物品、はたまた工芸品に至るまで、農工商を生業とする人々に依存する必要があったのです。城下町には、そうした需要にこたえるため、多くの職人・商人が定住しました。近隣の村々からは米・野菜・川魚といった食糧品が水陸双方の交通網を利用して集められ大いに賑わいました。



一方、幕府認定の主要街道、「日光街道」と「日光東街道(多功道)」は、古河の陸上交通の中心です。前者は、古河市西部を南北に貫く五街道のひとつでもある道路で、市内にあった宿駅は「中田」と「古河」。後者は、現在の野田市関宿から利根川を渡り境町を通り抜け、旧三和町の中央を結城市へ縦断する街道であり、宿場として「仁連」と「諸川」と「谷貝」が設置されていました。とくに諸川は、現在でも宿場の景観をよく残しています。

<近代現代の古河>

1. 明治を迎えた古河 古河県から茨城県へ

「古河県」をご存じでしょうか? 明治4年に国郡制を改め、下総・武蔵・下野・上野国境をまたぎ成り立った県です。古河県の廃止により古河市は、印旛県・千葉県所属と変遷し、同8年、茨城県に編入されたのでした。

2. 近代を支えた産業 茶・製糸・野菜

今年迎えた古河駅開業120年。茨城県で最も古い駅として、この駅は、多くの人・物を運び、近代の古河を支えました。江戸時代同様、交通の便に恵まれた古河は、その後も多種多様な産業を生み育てます。

例えば「茶」。近隣の村々で生産された茶葉の多くは、古河町に集められて製茶されました。出荷するのに都合がよかったのです。製糸業は、



近代以降発展した産業です。最盛期にはその品質の良から世界中へ輸出されていました。つぎに野菜。大勢の人々の努力の歴史があって、総和・三和地区は、現在、県内有数の野菜産地に成長。とりわけて「きゃべつ」「かぼちゃ」「ブロッコリー」は県内一の生産量を誇ります!

最近では県銘柄産地指定品として「切りバラ」「ほおずき」なども生産しているとのこと。

新・古河歴史散歩



伝蕃山堤 (関戸)



永井路子旧宅 (中央町二丁目)



思案橋
(静御前伝説・下辺見)



女沼のささら



古河歴史博物館 (中央町三丁目)



鷹見泉石記念館 (中央町三丁目)



古河城跡
(渡良瀬川河川敷)



古河公方館跡
(古河総合公園)



旧日光街道



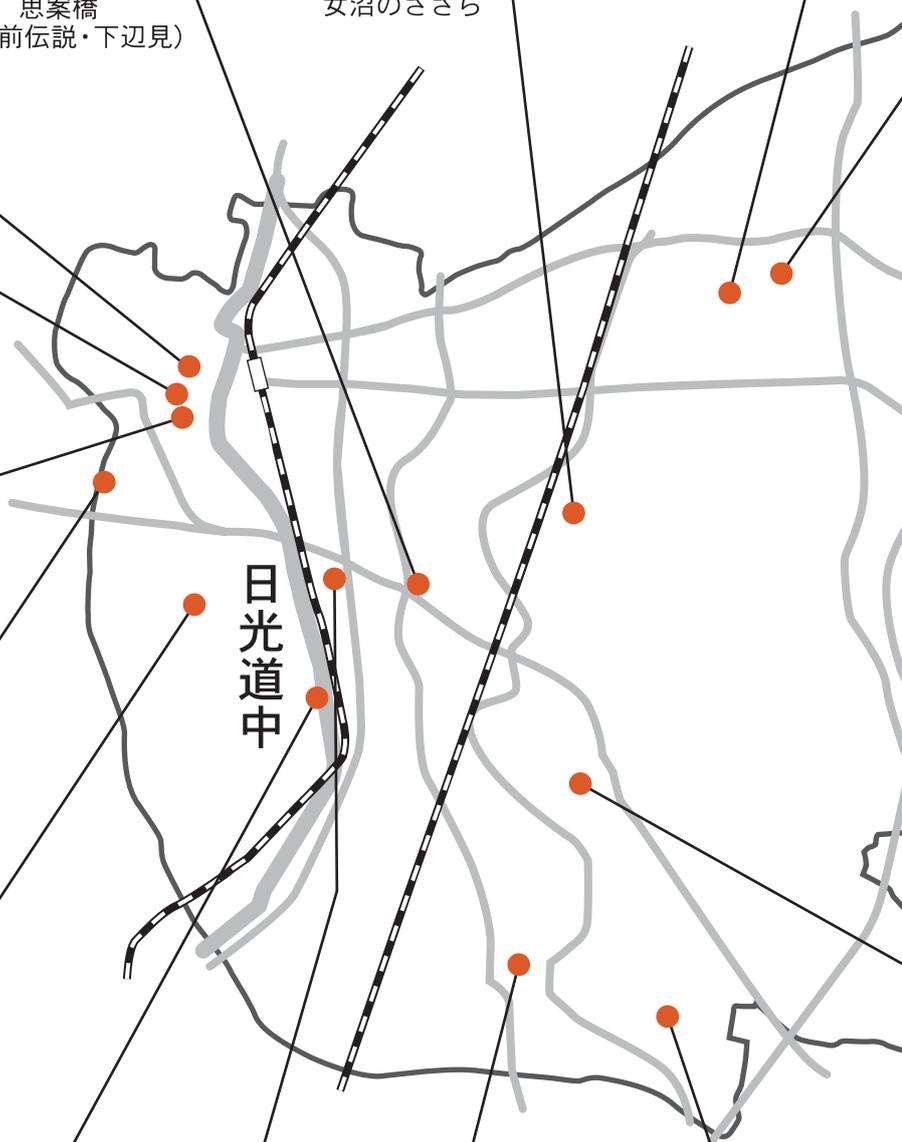
熊沢蕃山墓所
(鮭延寺・大堤)



東光寺のシイ (前林)



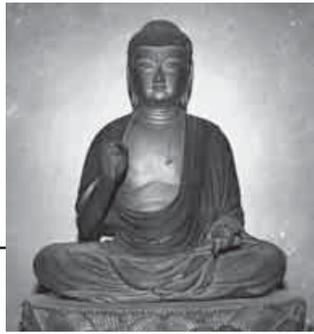
三島神社
(水海)



日光道中



関戸の宝塔



向龍寺・阿弥陀如来坐像
(諸川)



燦 SUN 館 (三和図書館資料館・仁連)



八俣送信所鉄塔群



八俣送信所局舎



イチイガシ (恩名)



ボダイジュ (仁連)

日光東街道



築田氏墓所
(安禪寺・磯部)



八俣村農地改革記念碑



東山田郷有林記念碑

古河歴史博物館企画展

新・古河市誕生記念

新・古河風土記

11月23日まで

新しい古河市が誕生したことを記念した展覧会です。古河・総和・三和地区それぞれの歴史的背景や特色を紹介しています。また、本年は中世東国に大きな影響を与えた古河公方足利成氏が鎌倉から古河に座を移してから550年になります。そこで古河公方と各地区とのかかわりを軸に、中世から近代の歴史を取り上げてみました。





▲恒例のダンスコンテスト。若さあふれるダンスパフォーマンス



▲野天のデパート、出店も盛況。できたて、作りたての味は格別



▲お囃子に合わせてこっけいに踊る姿に観客も大喜び



第7回 関東ド・マンナカ祭り

古河市になって、最初のお祭り「第7回関東ド・マンナカ祭り」が10月8日・9日に広域中央運動公園で行われました。

小雨の降るあいにくの空模様でしたが、ダンスコンテストや山車・御輿のパレード、「民俗芸能の集い」や「マイステージ」など盛りだくさんのプログラムに集まってくれた市民の皆さんの熱気で会場内は大盛況。2日間で9万5,000人が来場しました。



▲「伝統芸能の集い」では、数々の芸能を披露(写真は柳橋磐戸神楽)



▲ヒーロー登場、子どもたちはおおはしゃぎ





第59回 市民運動会(古河地区)

スポーツの秋を満喫

10月2日、第59回市民運動会(古河地区)が古河第三小学校で開催されました。夏が戻ってきたような日差しの中、28自治会3,000人の市民が自治会対抗の部や個人の部などに参加。校庭に響く大きな歓声の中、スポーツの祭典を楽しんでいました。

自治会対抗の部の総合成績は以下のとおりです。

優勝	松原町
準優勝	雷電二丁目
第3位	常盤台



◀2本の棒で樽を転がす、「樽ころがしリレー」。そのまま転がすとまっすぐには転がらないので、片方の手で樽の脇を押さえながら転がします。中腰の姿勢で走るのも大変そう



▶「ワッシュョイリレー」。玉を落とさないように、二人でバランスをとりながら走ります



▲一致協力リレー



▲転んでもがんばって



▲準備体操を入念に



▲白熱のこどもリレー

新市の市章に 1,026 点の応募

市章は来年 1 月中に決定

8月3日から9月2日まで、新「古河市」の市章デザインを公募したところ、全国から1,026点もの力作が集まりました。たくさんのご応募ありがとうございました。

応募作品から、市章候補作品を選定するため、美術、芸術関係の知識経験を有する7人の委員で組織された古河市市章候補選定委員会が、10月11日に生涯学習センター総和（とねミドリ館）で開催されました。選定委員会では、応募作品の中から新「古河市」のイメージにふさわしい5点のデザインを選定しました。

候補作品5点の中から、市章を決定するため住民アンケートを実施します。アンケートの詳細については、広報古河12月号に掲載します。

新市の市章は来年1月中に決定する予定です。



▲▶1,026点の中から一次選考で89点に絞られ、さらに二次選考で29点が選ばれました。その後、選定委員の投票により、5点が選定されました



【問】 企画政策課

合併後、初の議会を開催



▲中央公民館を本会議場に開催

9月26日・27日、第1回古河市議会臨時会が開催されました。執行部から提出された案件は議案6件、認定21件。また、議員から提出された案件は議案4件。正副議長の選挙などの議会人事や、条例・暫定予算等の審議が行われました。

○議長・副議長の選出
議長 並木 寛
副議長 磯本 俊男

秋、文化に触れ歴史に学ぶ季節

古河歴史博物館、古河文学館、篆刻美術館、古河街角美術館では、それぞれに秋の企画展を開催中です。期間は11月23日まで。秋のひとつき、4館を徒歩で巡ればちょっとした散歩コース。ゆっくりと自分のペースで文化と歴史に触れてみませんか。



古河歴史博物館「新・古河風土記」

室町時代から近代までの古河の歴史的資料が展示されています。昔の古河地方を表す鳥瞰図ちようかんずや明治時代の鉄道計画など貴重な資料を目にすることができます。

◀古河地方の歴史をしるすさまざまな資料に目を凝らして……

古河文学館「古河ゆかりの文学」

古河にゆかりの文学者、また、古河を舞台として描かれた文学作品が展示されています。古典から小説、詩歌、児童文学と、あらゆるジャンルの文学に登場する「古河」を知ることができます。

▶秋の夜長に古河を読んで……



篆刻美術館・古河街角美術館 「第二回初世中村蘭臺展」

日本の近代篆刻を構築した初世中村蘭臺なんたいの作品(刻印・印影、篆刻工芸)などが両館に展示されています。詳しくは「博物館ニュース」(P20)をご覧ください。

◀日本で唯一の篆刻美術館。遠方からも多くの方が訪れます



仲良く、楽しくそして元気に



▲古河第4保育所



▲関戸保育所

10月1日、抜けるような青空の下、市立保育所全7カ所で一斉に運動会が行われました。

毎日、楽しく練習したお遊戯や体操をママやパパ、おじいちゃん、おばあちゃんが優しいまなざしで見守る中、のびのびと披露していました。

徒競走や親子競技では、家族やお友達の声援を受けながら、仲良く、そして元気いっぱいに競っていました。

高齢者交通安全 マレットゴルフ大会

秋の全国交通安全運動期間中の9月27日、リバーフィールド古河で第9回高齢者交通安全マレットゴルフ大会が開催されました。参加したのは60歳以上の人、113人。4～5人のグループに分かれて18ホールを回り、スコアを競いました。

昼食後には交通安全教室を開催。古河警察署の職員から、事故に遭わないために注意する点などを学びました。

マレットゴルフのルールを守ると同様に、交通ルールも守りましょう。



▲秋は夕暮れ時の事故の危険性が高まります

笑顔で真剣勝負



▲さあ、楽しいゲームの始まりだ

10月10日、体育の日。広域中央運動公園無料開放の日です。当日は、約1,400人の利用者がありました。アリーナでは小学生のドッジボール大会を開催。友達同士でチームを組んで、当てても当てられても歓声と笑顔の絶えない楽しい時間を過ごしているようでした。

就学児童健康診断

古河市立小学校全23校では、来年4月に就学予定の子どもたちを対象に小学校ごとに就学児童健康診断を実施しています。

眼科、歯科、内科などの健康診査を、神妙な顔をして受診する子どもたち。ここは幼稚園のお友達とは別の新しいお友達と初めて会う場所でもあります。

あと5カ月経てば、上級生に連れられて、ちょっと大きめのランドセルを背に元気よく登校する姿を市内各地で見かけることとなります。市民みんなで見守ってあげましょう。



▲諸川小学校

動物愛護コンクールで知事賞を受賞

動物の愛護と適正な飼い方の啓発を目的として行われる「動物愛護絵画・ポスター・標語コンクール」。このコンクールで、市内の2人の児童が知事賞を受賞しました。

絵画・ポスターコンクールの小学校高学年の部で、堀江成美さん（駒羽根小6年）が受賞。また、標語コンクールで「ぼくたちにわかるといいな 動物語」を出品した安喰裕一郎くん（小堤小3年）が受賞しました。



安喰裕一郎くん



堀江成美さん



▲動物が大好きという堀江さんの作品。自分の家で飼っている猫と自分を描きました



西木 一夫さん
(長谷町・77歳)

—俳優座との出会いは

もともと大阪で生まれまして、地元の仲間たちと芝居みたいなことをしていました。戦争中は学業半ばで兵役へ。1年後、終戦を迎え郷里に帰りました。

混沌とした時代でしたので、さあこれから何をしようかと考えたとき、自分が好きだった演劇の道で自分の力を試そうと思い、東京六本木の俳優座の門をたたき、演

出研究生になりました。それから半世紀、古河に住んで30年、演劇を作り上げる魅力に取り付かれたまま今に至っています。

—思い出に残る作品は

どの作品にも思い入れはありません。最初に手がけたのは1958年の「琵琶法師 静 道成寺」という作品でした。演出研究生となって10年くらい経ってましたね。

その後は数多くの芝居の演出をしました。最も多く上演したのは「とりあえずの死」という作品です。200公演ぐらいだったかと思います。この作品は、中国残留女性たちの物語で、オリジナル作品です。この作品を作るために、作家と一緒に中国に当時の様子取材に行きました。

日本の演劇界にあって、数多くの名演を世に送り出している俳優座。その俳優座で五十余年にわたり、数々の作品の演出を手がけられている、演出家西木一夫さんにお話を伺いました。

ブックレビュー —Book Review—

第20回 江戸川乱歩賞 受賞作 小林久三 著 『暗黒告知』

今回は、社会派推理文壇の代表的作家、古河出身の小林久三が描いた『暗黒告知』をご紹介します。

小林久三は昭和9年古河生まれ。古河一高から東北大学へ進み、松竹大船撮影所に助監督として入社。その後、プロデューサーを経て、推理評論や小説の執筆を始めます。そして昭和49年、この『暗黒告知』で推理作家の登竜門、第20回江戸川乱歩賞を受賞、本格的に創作活動に入りました。

ときは明治40年。足尾銅山鉍毒被害の解決のため、広大な貯水池に変わる運命にある谷中村で起こった、奇怪な密室殺人から物語

は始まります。

ここから、密室殺人の本格的な謎解きに加え、足尾銅山鉍毒事件を闘い抜いた不屈の義人・田中正造を登場させるとともに、密偵やスパイを用いてまでもなされる警察権力の執拗な介入、また、事件



当時はまだ捜査方法にはなかった指紋を使ったトリック等を巧みに組み合わせ、スパイ・スリラーとしての一面も持った、社会性豊かな歴史推理が展開されます。

この作品については、文芸評論家の権田萬治氏も「本格的な謎解きに強烈な社会性を加味することによって、氏の推理作家としての

活動に新しい可能性を切り開いた記念碑的な歴史推理小説の秀作である」と絶賛しています。

ところで『暗黒告知』では、随所にまるで映像を見ているかのような、当時の古河とその近郊の風景描写が出てきます。人物や風景の描写に優れていることは、数多い小林作品に共通の特徴として挙げられますが、これは、映画界出身である著者ならではのしょう。

残念なことに、社会派推理の傑作『暗黒告知』は現在、絶版となっていますが、市立古河図書館、文学館等で閲覧することができます。読書の秋、地元ゆかりの作家の本格推理に挑んでみてはいかがでしょうか。

(古河文学館 秋澤正之)

私はオリジナル作品を演出するときは、作家と一緒に取材を綿密にするんですよ。「南回帰線にジャポネースの歌は弾ね」では、ブラジルまで取材に行きました。これはブラジルに移住した日本人の物語なんです。「収容所からきた遺書」はシベリア抑留兵の話で、やっぱりシベリアまで取材に行っちゃいましたね。私個人の戦争体験から来るのでしょうか、外地に残された日本人、国に捨てられた日本人をテーマにしたシリアスな芝居を多く手がけてきました。シリアスな演劇を作るとき、リアリティを出すために取材は欠かせないんですよ。でも、ほかにも別役実の作品やシェークスピアの喜劇も演出してるんですよ。



▲西木さん演出「とりあえずの死」の一幕(西木さん所有)



▲稽古場で演出中(中央が西木さん)

ー今後の抱負を聞かせてください。

今は、俳優座研究生を中心に指導していて、若い人からエネルギーをもらっています。もう少ししたらシェークスピアの喜劇を手がけてみたいですね。古河で上演できたら楽しいでしょうね。

ー西木ワールドの古河公演、楽しみにしています。本日は大変ありがとうございました。

一つひとつ言葉を選びながら演劇を語る西木さん。芸術家としてのオーラを感じずにられませんでした。これからも、ますますご活躍されることでしょう。

図書館

おすすめの図書

◇一般書

・甲賀忍法帖

山田 風太郎 著

憎しみあう忍者の二大勢力、甲賀と伊賀。その垣根を越えて、甲賀の弦之助と伊賀の臙おぼろは愛し合っていた。だが、悲劇が襲う。徳川家康の命により甲賀と伊賀に死闘が始まったのだ。敵同士となる弦之助と臙、二人の愛の行方は？

9月に公開された映画「SHINOBI」の原作。

出版社 講談社

請求記号 F ヤ

所蔵館 中央公民館

・京極噺六儀(だいほん)集

京極 夏彦 著

京極夏彦、初の古典作品集。狂言「豆腐小僧」「狐狗狸噺」「新・

死神」のオリジナル台本と上演台本、落語「死神remix」のオリジナル台本に、「巷説百物語」から「小豆洗い」に題を得た新作講談を収録。

出版社 ぴあ

請求記号 912 キ

所蔵館 生涯学習センター総和



◎児童書

・ジュリエッタ荘の幽霊

ベアトリーチェ・ソリナス・

ドンギ 作

第二次大戦末期、母親の田舎に疎開していたリッリは、夏のある

日「呪われた屋敷」で見知らぬ少女を見かけた。噂では、結核で亡くなった少女の幽霊が現れるというが……。戦時下のイタリアの田舎を舞台に描く、秘密と友情の物語。

出版社 小峰書店

請求記号 K973 ジ

所蔵館 ユーセンター総和

・はみがきごっこ

きむらゆういち さく

長野ヒデ子 え

ばくばくもぐもぐ、ごちそうさまー。おいしく食べたそのあとは、ジャーン！これでシャカシャカ歯をみがくのよ。

ママが取り出した歯ブラシを見たあこちゃん、みんなの歯をシャカシャカ。あれ、あこちゃんの歯はしないの？

出版社 佼成出版社

請求記号 E

所蔵館 小堤公民館(つつみ館)



古河の文化財

古河市の埋蔵文化財

古河市は、鬼怒川と思川・渡良瀬川に挟まれたなだらかな丘陵地である常総台地と、利根川左岸の低温な沖積地からなっています。台地は、小河川によって浸食されて樹枝状の地形を形づくっており、これらの台地縁辺部を中心に、太古より人々が生活していた痕跡(埋蔵文化財)が残っています。

例えば、渡良瀬川につながる鴻巣の低地を臨む台地縁辺部には原町西貝塚など、貝塚を伴う縄文時代前期の集落跡が確認されています。向堀川左岸の思案橋遺跡では縄文時代後・晩期の集落跡が確認され、ミミズク形土偶が出土しています。古墳の多くは、河川改修などにより破壊されてしまいましたが、西仁連川、大川沿いには五十塚古墳群、後円山古墳などが現存しています。また、平安時代には飯沼川左岸の浜ノ台窯跡周辺で、須恵器を生産していたことが判明しています。

これら先人の生活の痕跡は、国民共有の財産であり、過去から未来へと伝えていかなければならないものです。したがって、遺跡や遺跡の近接地で地面を掘削する場合には、文化財保護法の適用を受け、事前に保護措置を講じなければなりません。埋蔵文化財の取り扱いについては、開発計画段階から教育委員会との協議をお願いします。



▲思案橋遺跡出土のミミズク形土偶



▲古河城址獅子ヶ崎の土塁

コミュニティ通信

スポーツや文化行事を通して融和を図る

明治の大合併までは、女沼村として一つの自治体であった女沼行政区。行政区長の田中義枝さんにお話を伺いました。

「女沼行政区は、16の町内会で構成されていて、加入世帯は約1,000世帯です」。「行政区には3大行事があります。毎年8月には女沼公民館広場で盆踊りを開催しています。古くからの伝統行事で、おそらく数十年は続いていると思います。老いも若きも踊らにゃ……という雰囲気、皆さん、夏の宴を楽しんでいます」。

「秋には行政区主催の運動会と文化祭を開催しています。運動会は毎年10月にちびっ子広場で、親子競技や町内会対抗競技などを中心に開催し、今年で26



▲『女沼のささら』(関東ド・マンナカ祭り)

女沼行政区

回を数えました。その成果でしょうか、旧総和町の町民大運動会では行政区対抗の部で6年連続優勝しています。その他町民バレーボール大会やソフトボール大会も毎年入賞しています」。

「文化祭は11月に女沼公民館で開催し、今年は27回目です。皆さんが趣味で育てた盆栽、子どもたちの絵画・習字などの展示や、アトラクションなどで住民の融和を図っています。また、伝統芸能で旧総和町無形民俗文化財第1号の『女沼のささら』を披露しています。これからもさまざまな行事を通してコミュニティを推進していきたいですね」と話してくれました。





パークライフ

三和ふるさとの森

古河市役所三和支所の北、西仁連川のほとりに広がる「三和ふるさとの森」。平地林を活用した面積約51,000㎡の自然公園で、「茨城の自然百選」にも選ばれています。

施設内には、木々に囲まれた芝生広場や噴水があるひょうたん池などがあり、市内外からたくさんの家族連れが訪れます。近年、芝生広場の周りにブランコ・ローラーすべり台・丸太つり橋などを複合した遊具施設やバーベキュー施設(有料)も整備されました。

また、「三和ふるさとの森」の象徴的な建物として、正四角すいの屋根が目印の土俵付ビルドハウスがあります。ここでは昭和63年のオープン以来、わんぱく相撲やクラッ



シックコンサートなど、さまざまなイベントが行われてきました。

さて、「森」といえば森林浴ですね。ここ「三和ふるさとの森」の約三分の二は自然林。そこには遊歩道や休憩所が整備されていて、小鳥のさえずりを聞きながらのんびりと歩くことができます。入口道路が狭く、ちょっと分かりにくい場所にありますが、それだけに、たくさんの自然を満喫できると思います。ゆったりとした気持ちになれる癒しの空間で、家族みんなで光と風に戯れてみてはいかがでしょうか？

所在地:古河市東諸川711番地1

【問】本庁都市整備課

趣味ゆうゆう

ピアノの楽しさを皆さんに



▶ 昨年の合同ピアノ音楽会

約7年前に中田公民館で開催された市民講座「お父さんのピアノ教室」から、4つのピアノの会が誕生しました。それがフェルマータの会、メロディーの会、クラングの会、ハーモニーの会です。第1回から第4回の卒業生で作られ、合計約40人の会員がいます。

「ピアノは手と頭を使って弾くので、認知症の予防にもなりますよ」と話す会員の皆さん。楽しみながら健康づくりもできるようです。

普段はそれぞれの会が別々に練習をしていますが、年に2回、合同でピアノ音楽会を開催しています。今年も12月に開催します。「ポピュラーなピアノの名曲ばかり、約40曲を披露します。ピアノの楽しさを皆さんに伝えられるといいですね」と、会員の皆さんは音楽会への意気込みを語ってくれました。

○合併新「古河市」誕生記念ハーモニーの会・クラングの会・メロディーの会・フェルマータの会合同ピアノ音楽会

期 日 12月4日(日) 午後5時30分開場
午後6時開演

場 所 野木エニスホール

入場料 無料

【問】 合同ピアノ音楽会事務局

☎32-2319(鶴見宅)





▲三和中学校付近から望む紫峰・筑波山

私は現在、大阪にあるユニバーサル・スタジオ・ジャパンのすぐ近くのシティホテルの営業支配人をしています。住まいは、以前兵庫県に住んでいましたが、結婚を機に妻の仕事(着物の素描)の関係と、以前から京都に住んでみたい気持ちがあったことが重なり、今は京都市のほぼ中央にある上京区に住んでいます。区内には、伝統ある文化が現在も引き継がれており、千本釈迦堂(大報恩寺)、相国寺、北野天満宮などの歴史的遺産があります。また、自宅を道一本隔てたところには茶道の「不審庵」「今日庵」や人形の寺として有名な「宝鏡寺」があり、「茶道の道」と呼ばれている京都の中でも歴史のある町です。

365日、24時間誰かしら働いているというホテルの不規則な仕事に追われ忙しい日々を送っていますが、休日にはお寺回りや鴨川までのウォーキングをしたりして気分転換を図っています。

今回の古河市の合併話を聞いたとき、とても素晴らしいことだと感じました。私の頭の中によぎったことは、古河市＝商業、総和町＝工業、三和町＝農業。そして、この三つの特色を持った市町がコラボレーションできれば、必ずいいまちができると思います。

実家は諸川で、兄が電気工事業を営んでいます。故郷で忘れられない風景は、何といっても家から見える筑波山です。決して高い山ではないのですが、子どもころから見ていた紫に煙る筑波山の姿は、今でも忘れられません。「きれいに澄んだ秋の空 筑波の山は紫に」という諸川小学校

校歌、「紫におう筑波嶺の 清きすがたを仰ぎ見て」という三和中学校校歌も懐かしく思い出されます。年に一、二度しか帰れませんが、この風景と人の温かさがいつまでも残ってほしいなと関西の地から願っています。



京都市在住

石川洋治さん

(三井アーバンホテル大阪ベイタワー
営業支配人)



空手でハワイ遠征 浦貴洋くん(水海)

小学1年生のときから空手を始めたという浦貴洋くん(総和南中2年)。総和空手道会に所属し、月曜日から金曜日までの週5日

間、道場で練習に励んでいます。

「今までできなかったことができるようになり、自分が上手くなっていくのが面白い」と空手の魅力を語る浦くん。メキメキと上達し、前年、前々年の全日本ジュニア空手道選手権大会で3位となり、今年8月に行われた同大会では2位となりました。

この大会の成績により、全日本ジュニア空手道連盟のナショナルチームに選抜され、11月24日から6日間、ハワイ遠征に参加することが決まりました。世界中の選手が集まるホノルル国際大会に出場する予定です。「世界の強豪を相手にしますが、練習の成果を発揮してがんばりたいと思います」と、浦くんは遠征の抱負を話してくれました。

世界を舞台に戦う浦くんの今後の活躍が期待されます。

健康情報局

インフルエンザを予防しよう！

皆さんはもう冬の準備はできましたか？冬といえば、インフルエンザの季節です。インフルエンザはウイルスを吸い込んで起こる感染症で、かぜに比べて重い症状が出るのが特徴です。

○予防のポイント

1. 体の抵抗力をつける

今年の夏は暑く長かったため、栄養の偏りや睡眠不足で体力が低下した人も多いと思います。体力不足はインフルエンザにかかりやすくなる原因です。そこで、まずは栄養バランスを考えた食生活を心がけましょう。そして、十分な睡眠をとること。睡眠不足は抵抗力を低下させます。1日7時間以上の質の良い睡眠を心がけましょう。また、心肺機能を高めるため

適度な運動をしましょう。

2. ウイルスの侵入を防ぐ

冬の寒さや乾燥により、ウイルスがのどや鼻から侵入しやすくなります。外出から帰ったら手洗い、うがいを十分に行いウイルスの侵入を防ぎましょう。また、部屋の温度・湿度の調整も大切です。室温は20℃前後、湿度は50～60%に保ちましょう。

3. 予防接種を受ける

抵抗力の弱いお年寄りや慢性の呼吸器の病気のある人は、重症になりやすいので予防接種を受けるようにしましょう。高齢者の公費負担制度もあります。

(健康推進課)

表紙写真



市立上辺見保育所第32回親子秋季運動会にて、演目「親子で体操教室」の一幕。親子で協力してコース上にある平均台や跳び箱などの障害物を乗り越え、最後はおんぶでゴールを目指します。

寄付

寄付によりステージ設置

古河総合公園にステージが設置されました。これは、昨年の野村利夫氏(本町四丁目)からの寄付金により作られたもの。まだ土台のみですが、今後はステージの周囲も施工していく予定です。最初は11月5日・6日に開催される「古河よかんべまつり」に使用されます。



▲ステージの大きさは
6m30cm×16m25cm(舗装部分)

人口と世帯

(9月末日現在 住民基本台帳から)
総人口 146,995人 (-18)
男 73,702人
女 73,293人
世帯数 51,474世帯(+32)
()内は9月12日から末日までの増減

今月の料理

みず菜のサラダ



エネルギー=21kcal
たんぱく質=0.8g
脂 質=1.0g
塩 分=0.5g

材料(4人分)

みず菜100g 玉ねぎ40g トマト60g
☆(塩小さじ1/2 こしょう少々 酢大さじ1と1/2 だし汁大さじ1/2 油小さじ1)

作り方

- ①みず菜は2~3cmの長さに切る。玉ねぎはみじん切りにする。トマトは種を除いて5mm角に切る。
- ②☆の調味料と玉ねぎ、トマトを良く混ぜ合わせ、ドレッシングを作る。
- ③皿にみず菜を盛り付け②をかける。

(食生活改善推進会)

アイドル登場

メイクとカラオケが大好き!

斉藤ひなたちゃん (3歳1カ月・下大野)

この子は、秋のいい季節に元気に産声をあげました。6カ月のころから保育園に入り寂しい思いもしたことでしょう。でも親思いなのか一度も「保育園に行かない」と泣くこともなく、たくさんのお友達と楽しく日々を過ごしています。



今ハマっていることは上のお姉ちゃん(桃子)とメイクすることとカラオケを歌うことです。私たちの子ども時代には考えられないですよ(苦笑)。

名前の意味は、周りの人々に日なたぼっこしているようなそんなホンワカした印象を持たれるような子に育ててほしいとつけました。

(斉藤学さん・雅子さん)

博物館 ニュース

第二回

初世中村蘭臺展

篆刻美術館は、大正九年建造の石蔵を改修し、平成三年に開館した日本唯一の篆刻専門の美術館です。三階建ての石蔵は珍しいこともあり、平成十年には国の有形登録文化財に登録されました。篆刻とは、七千年前にメソポタミアで誕生した印章の一種で、約七百年前に中国で誕生したものです。書画作品に捺して作品の真贋を証明しますが、単独でも鑑賞

します。

初世中村蘭臺(1856~1915)

は会津で生まれ、名は稲吉、蘭台・蘇香・香艸居主人と号しました。作品の特徴ですが、その一は木印の開拓です。篆刻では通常石を用います。その二は木材

への加工です。木印の鈕を刻す手法で印盒・香筒・筆筒・煙管入・香合・茶托・菓子鉢等の諸器物および欄間や木額等、木を素材として篆刻工芸の分野を開拓しました。周秦漢時代の銅器・銅洗・瓦當・磚・齊刀・銅鏡・古銭が題材です。その三は



「描印」で、朱墨を用い、刻印を押した印影のように描いたもので、現在の公募展形式原型ともいえる鑑賞形式です。説明が無ければ印影と認識される程の出来です。その四は周秦漢時代の古文字を吸収し、篆刻・書を中心に篆刻工芸にも

応用しました。篆刻家といっても、初世中村蘭臺は明治を代表する書家でした。木印の原風景を存分にご堪能ください。

篆刻美術館館長 松村 一徳

平成17年11月1日発行

発行所/〒3061029 1
編集/古河市広報広聴課

茨城県古河市下大野2248

古河市役所

0280(92)

3111